

育て方 (日常管理～収穫)



購入後の苗木の管理方法



1. 水やり

届いたら水をやってください。

夏場は到着後2～3日は半日陰で管理してください。暗い箱から急に炎天下に置くと大きなストレスになります。苗への負担を軽減しましょう！



2. 植え替え / 植え込み

より詳細な手順を「[植え替え方法](#)」ページでご紹介しております。ぜひ、あわせてご参照ください。

● 15cmポリポット

5～10月にご購入：植え替え時、根はさわらずに、そのままごっそり植え替えましょう

11～4月にご購入：休眠期はなので根、枝ともにきちんと整理して植え替えましょう。葉が大きくなったら西日が照りつける所に置きます

● 21cm / 30cmスリットポット

鉢植え：古い根は整理しましょう。枝を切戻して植えつければ、翌年から結実する株ができます

露地植え：古い根は整理しましょう。樹が太ろうと、樹にばかりエネルギーを使うので翌秋の収穫は期待できません

※7月中旬～8月は暑く、根がいたんでしまうのでこの時期の植え替えは避けましょう

日常管理

(関東地方以西基準)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
置き場	3	日当たり					乾燥しない半日陰				日当たり		
水やり	3	土を指で1cmほど掘り、乾いていたらたっぷり											
肥料	2	元肥					実肥					※夏は朝・晩の2回やる お礼肥	



1. 土

土の配合：市販の培養土7 + 赤玉土2 + 川砂1 + 苦土石灰一握り
もちろん「桃太郎培養土」もオススメ！



2. 肥料

イチジクは「カリ分」を多く吸収します。＊カリ(K)：根や茎を丈夫にし、実を大きくする根肥
ぼかし肥料（玉肥）がオススメ！お近くの量販店で購入できます。他の肥料よりも微量元素が補われます。
春・夏・秋の3回施肥します。



元肥

苗の植え付けのときや果樹の休眠期や活動を始める前に与えます。
分量の目安：21cm/24cmポットで中粒5～6個



実肥

収穫前の果実の成長を促す目的で与えます。
【注意】弱った樹には与えないこと！梅雨時は控えめに！
分量の目安：小さい子供の手のひらくらい



お礼肥

収穫後に行い、収穫で体力を消耗した樹の回復が目的です。
分量の目安：30cmポットで中粒12-13個
＊春に枝が伸び、秋果が2～3個とれた時に元気がないようであれば、もう1回あげましょう。

3. 水遣り、置き場所

下の写真のように同じ樹でも日光のあたり方・養分のいき渡り方で、大きさ・色など、こんなにも違います！
イチジクは水分を非常に必要とします。特に鉢栽培の場合は、朝・晩たっぷりと水を遣りましょう。また、果実をおいしくするため、日光は十分に当ててやりましょう。ただし、真夏の太陽光は強すぎるので、西日がはやく陰るような場所がよいです。真夏の置き場は、乾燥しにくい半日陰が理想です。



4. 収穫

イチジクは成熟期になると急激に太りはじめ、数日後には果皮が色つき始め、果実がやわらかくなります。

太るにつれて糖度がふえ、酸味が少なくなっていきます。そろそろかなと思ったら、果頂部分にちかいところをやさしく上下に動かします。果梗（かこう：果実の首の部分と枝の境目あたり）がポロリと外れたらまさに収穫時期です！

イチジクの実はすぐに熟してしまうので、収穫時期をまちがえると味、品質、食味がちがってきます。熟しすぎはジャムなどを作るには最適ですが、生で食べるにはおいしさ半減なので注意！

イチジクの発育過程

(着果してからの日数)



食べ方・日持ち

丸ごとシャーベット、ケーキ、ジャム、パン、サラダなど楽しみ方はたくさん！

生食するときは、果梗部から果頂部にむけて皮をむいて食べます。

イチジクの成熟は果頂部から果実下部へとすすみます。

切り分けて食べるときは、縦に切れば誰もがおいしく食べられます！



日持ちに関して

熟度のすすんだ果実ほど日持ちも悪くなります。

収穫時刻、温度、保存温度など果実の取り扱い方によって差はあります。

	未熟果	やや未熟果	適熟果～完熟果
日持ち	2日	2～3日	4～5日